

2018年9月16日(日)／説教者：國分美生

説教：「生きよ、開かれた道を行け」

聖書：イザヤ書43：8～28

16節から20節は、イスラエルのエジプト脱出が念頭に置かれているでしょう。神が海の水を分けて道を通し、イスラエルの民を追っ手から逃れさせたあの場面です。イスラエルはその決定的な救いの出来事を繰り返し思い起こし、神の憐れみと救いを記憶に刻んできました。

「道」というタイトルのついた歌は身の回りにたくさんあります。例えば往年の大スター、フランク・シナトラが歌った「My Way」など。しかし、それら流行歌とこのイザヤの記述には決定的な違いがあります。前者は自分が信じた道を、自分の力で進んでいく歌。対してイザヤは、神が自分たちの道にいかに関与してくださり、ここまで生かしてくださったかを再確認する内容です。

エジプトを脱出したイスラエルの人々は、行く手を阻む海を目の前にして強大な敵に追い詰められ、恐怖におののき、怒りながらモーセに文句をぶつけました。しかし神はそのような自分勝手に愚かな人々を敵の手から救い出し、約束の地へと導きいれてくださいました。その驚くべき救いの出来事はイスラエルの民にとって、自分たちの神への信仰の基礎となりました。

その神が今再び、イスラエルの人々に対し救いを告げます。「見よ、わたしは新しいことを成就する…私は荒れ野に道を、砂漠にいくつもの河を置く」。イスラエルの人々が海の中の道を渡って逃げた出来事は単なる逃亡劇ではなく、絶望の只中において神が与えてくださった救いの道を進んでいった出来事でした。そのような神が、私たちの目には希望のかけらさえもないようなところに、命の道を開いてくださるのです。そんなふうには、神が深い愛と憐れみをもって救われる人間とは、決して立派なものではなく「目があっても見えぬ民、耳があっても聞こえぬ民」(8節)です。驚くべきことに神はご自分に対して不誠実な人間たちを証言者として立て、神を証しさせるというのです。神は人間を愛し、信頼することをやめません。なぜか。それは神ご自身が人々の救い主になると決断したからです。

私たちの身にどんな誹謗中傷・大きな権力によるいじめ・命の危険があろうとも、神は「生きよ、開かれた道を行け」と私たちを祝福し、イエス・キリストに向かう道へ押し出してくださいます。「見よ、あたらしいことをわたしはおこなう。今やそれは芽生えている。」神の救いの約束の成就であるイエス・キリストに信頼して、今週も歩んでまいりましょう。(國分美生)